

## 総務委員会主催

# 「第 41 回消費者問題懇話会」報告

12月10日(火) 13:30~16:30 大阪産業創造館研修室にて、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク事務局長の新田 英理子氏を講師にお招きし、「SDGsとオリンピック・パラリンピック ~オリンピック・パラリンピックを通してSDGsを読み解く~」

をテーマに「第41回消費者問題懇話会」を開催いたしました。参加者は、34名でした。

懇話会は、前半の講義と後半のグループワークの間にティーブレークを挟み、賛助会員をはじめ企業からの参加者も多く、和やかな雰囲気での交流の場を持つ事ができました。

前半の講義では、SDGsの背景から私たちひとりひとりへの取り組み方を以下のポイントで伝えていただきました。



(新田 英理子氏)

- ①持続可能な開発のために国連が取り組んできた背景に、「やりやすい所、やりたいこと」からやった結果、「やりにくい所、やりたくないこと」ばかりが残ってしまった。だからこそ、目標を高めるためにも最も遠くに取り残されている人を最初に掲げて、SDGsの精神を「誰ひとり取り残さない」としたこと。
- ②17のテーマ、169の項目は、あらゆる貧困をなくし(1~6)、つづく経済をつくり(7~11)、環境を守り育てる(12~15)そしてゴールを実現する(16~17)ための世界共通のものさしになっていること。
- ③オリンピック開催の目的(オリンピック憲章)は、スポーツ・文化・環境へ配慮することがSDGsに繋がっており、例えば、ごみゼロナビゲーション・海のプラスチックごみ問題・食品ロスなど身近な取り組みが既に関連していることなど。

後半のグループワークでは6つのグループに分かれ、A『消費生活とSDGs』、B『メガイベントからのレガシー』のテーマでの議論、全員が各テーブルを回り、出された意見に「いいね!」シールを貼る形式でした。これまで出会わなかった人からのアイデア・知見が新たな切り口となり活用できる方法でしたが、人によって落とし込み方の違いは「いいね!」シールの分散で明白でした。

2030年に向けてSDGsへの行動は、多様な主体が入り混じり相乗効果による加速が必要になっています。今回のティーブレークやグループワークは、新たな気づきを得るためのよいきっかけとなりました。

## グループワーク結果 いいねシール 5 個以上獲得

### テーマA 消費生活とSDGs (4グループ取り上げ)

ゴール12の達成のために、今行っている活動をどのように工夫したり、広げますか？そのための課題とアクションプランについて討議してください。

#### ー達成のための課題ー

- ・活動の見える化！ 例) 食ロス削減の取り組みの成果として数値化する
- ・行政・事業者・消費者・市民の連携が不十分
- ・使い捨てが多い

#### ーアクションプランー

- ・行政として数値目標としてコミットし、公表する。KPIとして評価
- ・消費者への啓発にアクティブシニアの力を活用する施策
- ・顔がみえる・・・のように、原料ができているところの写真の掲示など
- ・消費者教育。過剰な要求 ⇒ コストアップ
- ・足るを識るということを学ぶべきではないか
- ・環境に配慮した活動をしている企業が評価される仕組みを作る
- ・捨てたくなるゴミ箱
- ・ペットボトルをなるべく買わず(1日1本以内)、できるだけマイボトルを活用する
- ・バイキングの禁止
- ・次世代を担う子どもたちへメーカーとしての出張授業(SDGsの取り組み紹介など)

### テーマB メガイベントからレガシーを(2グループ取り上げ)

東京2020大会、2025大阪万博を契機に社会的レガシーを残すためには、どのような事業や活動が有効でしょうか。各主体が何をすべきかも考えましょう。

#### ー達成のための課題ー

- ・大阪万博の委員に女性や若者を取り入れる
- ・オリンピック、万博を通してゴミの分別・再利用、リサイクルの仕組みづくり

#### ーアクションプランー

- ・余った物への有効活用の仕組みづくり(ボランティアでなく必要経費はいただく)
- ・大阪万博での食をテーマにした出展で、食ロスもテーマとすること
- ・子どもたちの未来につながる街づくり。インフラ(ユニバーサル、ジェンダー)、スマートタウン